

2021年度 第3回 CUC公開講座

# 地域の自助力向上を目指す 楽しい防災教育

サービス創造学部教授  
DINING SERVICE DESIGN LAB 代表  
学長プロジェクト3サブリーダー  
西尾淳







# 大学は地域防災に何ができるか

千葉商科大学

- ◆千葉商科大学は約6200人の若者が集まる場所
- ◆有事の際、学生は被災者ではあるが、支援者ともなって欲しい
- ◆自らを守るスキルと他者を救うマインドを持つこと
- ◆継続的に学べる防災教育
- ◆自助共助が当たり前な地域社会へ





# 「楽しい、防災教育」





# 防災フォトログ in いちかわ

走って、獲って、ポイントゲット!

## フォトログ in いちかわ

第3回

**外理道工事中**

工事現場を横切る部分の歩道橋や歩道は緊急に架け替え中です。現場の案内板や標識に注意してください。道幅が狭くなっている部分で車や自転車に注意して通行してください。

交通ルールは必ず守る。違反運転や路上車への干渉は禁止です。歩行者は歩道の端寄り(歩道幅が狭い場合は中央寄り)の歩道内や歩道に並び歩く。歩道が狭い場合は歩道の端寄り(歩道幅が狭い場合は中央寄り)の歩道内や歩道に並び歩く。歩道が狭い場合は歩道の端寄り(歩道幅が狭い場合は中央寄り)の歩道内や歩道に並び歩く。

等高線間隔 10m  
1:20,000

千葉商科大学  
2018年3月31日(土)


第3回 フォトログ in いちかわ  
2018年3月31日(土) 千葉商科大学

・3時間限 全47ポイント 2000点満点  
・開始ののりかたは、この準備と同じ趣の写真を  
撮影します。撮影すると、そのポイントの数字が  
とびます。  
・公共交通機関は、電車・道路のみの利用可です。  
・満員は各自でご確認ください。  
・(安全のため) 自転車は、歩道に並び歩きます。  
・どんなに遅くとも15時にはゴールすること。  
・遅れそうなときは 080-3470-0333  
(仮交番) に電話してください。状況確認は可能です。  
・交番では、優先席でもお休みになっておられます。  
・自転車でも、自転車・歩行者共に注意!

走って、獲って、ポイントゲット!

## フォトログ in いちかわ

第3回

2018.3.31 SAT

8:30~15:30

集合場所: 千葉商科大学 THE UNIVERSITY DINING

**参加者募集**

今回のテーマは「防災」です。

参加者全員が防災グッズを身につけて、このフォトログに参加します。参加者全員が防災グッズを身につけて、このフォトログに参加します。

参加者全員が防災グッズを身につけて、このフォトログに参加します。

CUC 千葉商科大学

2018/03/31(土)  
第3回フォトログ in いちかわ  
参加者用  
LUNCH TICKET  
チケットはスタンプ  
箱に入れてください  
THE UNIVERSITY DINING



# 防災フォトログ in いちかわ

フォトログ in いちかわ「防災フォトログ」実施（2018年3月31日）

## ◆「楽しい」をデザインすること

- ・The University DINING の活用（明るく開放的な空間・ランチ提供）
- ・学生の運営参加（若い感性・訓練ではなくイベント）
- ・子供が参加しやすい内容（親子で参加・賞の設定・記念品）
- ・消防署の協力による防災体験（起震車・消火器・煙体験ハウス）

## ◆実施概要

- ・開催日時：2019年3月31日（土）8:30～15:30
- ・開催地：市川市内
- ・参加者：223名（大人151名、子供64名、3歳以下8名）
- ・参加費：3歳以下無料、4歳～小学生500円、中学生以上1500円
- ・参加賞：UD ランチ・UDロゴ入りホイスル
- ・表彰式景品：防災グッズ

## ◆参加者の声

- ・初めて家族で参加したが楽しめたのでまたやってみたい。
- ・子どもががんばって走る姿を見られて良かった。
- ・学生の皆さんが地域に興味を持ち、地域住民を巻き込む活動をされていることに感心します。
- ・今後も継続して行ってほしいです。学生さんの運営もとても良かったです。
- ・桜満開の中とても楽しかったです。楽しすぎて時間が足りませんでした。
- ・広範囲に歩けたので楽しめた。地域の人々が交流できるとさらに良し！！
- ・学食での美味しい食事が楽しみで参加しました。ログも楽しいのでまた参加したいです。



# サバイバルキャンプ in いちかわ

## 72時間サバイバル教育協会

災害発生後72時間を超えると生存率が大幅に下がると言われています。そのため、行政等の組織的救出・支援（公助）が始まるまでに、周りに大人がいない状況でも自力で生き抜く力（自助）が必要となります。「サバイバルスキル」の修得は勿論のことながら、どんな状況でも自分で考え判断し行動する「サバイバルマインド」の修得の両立を目指していきます。この72時間サバイバル教育を普及することで災害発生後に一人でも多くの子供たちがたくましく生き抜く力を身に付けるだけでなく、社会に出てからも自らの人生を自ら切り拓く自立した若者が増えることを願ってこのプロジェクトを推進していきます。



代表理事：片山誠氏





# サバイバルキャンプ in いちかわ

災害時に生き延びるために必要なスキルを学ぶための「72時間サバイバル教育プログラム」



**① ファイヤー**  
寒さをしのぎ、調理にも使う「火」を、災害時にはどのようにして使用・管理するのか、その具体的な方法を学びます。



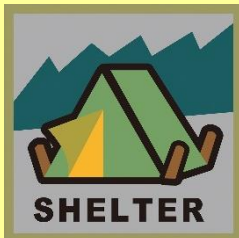
**⑤ SOS**  
災害時に救助隊にいち早く発見してもらうためにはどのようにすれば良いか、SOSの方法を学びます。



**② ウォーター**  
災害時に必ず必要になる「水」。どうやって水を確保し、安全に管理するか、その具体的な方法を学びます。



**⑥ ファーストエイド**  
ケガをした場合の止血、応急手当の方法をはじめ、熱中症、低体温症、感染などの二次災害を防止する方法を学びます。



**④ シェルター**  
災害時に雨露・寒さ・暑さをしのぐために必要な「住」環境をどのようにして確保するか、具体的な方法を学びます。



**⑦ ナイフ**  
災害時に役立つ道具の「ナイフ」。安全に使いこなせるよう、体験を通じてさまざまな使用方法を学びます。



**④ フード**  
限られた環境でどのようにして食事の確保を行うのか、ある物を工夫しておいしく食べるノウハウなどを学びます。



**⑧ チームビルド**  
災害を乗り越えるために必要な避難場所でのチームづくりと、そこで必要な役割や行動とは何かを学びます。



## ◆公認サバイバルマスター

災害時に自分を守り、他人を助ける知識と技術を学んだ証。災害時にはマスターに避難所や現場でスキルに合わせて活躍するミッションが与えられるという仕組みづくりをします。さらに自分自身のスキル向上に取り組み、自分の地域において子どもたちが継続して学習していくサポートをしていきます。





# サバイバルキャンプ in いちかわ

- 
- ◆小学生向け「ファイアープログラム」を大学生に実施
  - ◆教えない教育＝自分で考えて答えを出す
  - ◆有事に役立つのは「自分で体験して身に付けた」もの



# サバイバルキャンプ in いちかわ

- ◆**第1回:2019年3月8日(金)10:00~15:30** 1号館前緑地  
プログラム受講者8名(学生5名・社会人3名)・フォトグラファー1名・  
ビデオ撮影1名・運営メンバー3名・見学者1名
- ◆**第2回:2019年10月23日(水)10:00~16:00** 正門守衛室裏空き地  
プログラム受講者14名(学生14名)・フォトグラファー1名・  
運営メンバー3名・取材学生1名
- ◆**第3回:2020年11月28日(土)9:00~16:00** 1号館前緑地  
プログラム受講者10名(学生8名・職員2名)・フォトグラファー1名・  
運営メンバー3名
- ◆**第4回:2021年6月12日(土)9:30~16:30** 1号館前緑地  
プログラム受講者15名(学生15名)映像製作スタッフ2名・  
運営メンバー4名



# サバイバルキャンプ in いちかわ

## 第3回サバイバルキャンプ in いちかわ (2020年11月)



1号館前の緑地で実施



小学生の時以来のマッチ体験



少量の新聞紙と木っ端から  
太い薪に火を起こす



実技を終えてから筆記試験。  
合格者にはワッペンを贈呈。



合格者に渡されるファイヤーワッペン



「思っていたよりずっと楽しかった」の声



# サバイバルキャンプ in いちかわ

## 「トリさんのカレー」開発と防災食としての利用



### THE UD PROJECT 2019

私たちUDプロジェクトは千葉商科大学の学生で組んでいる団体です。  
SDGs(2030年に向けて持続可能な開発目標)への取り組みとして  
千葉の魅力をぎゅっと詰め込んだレトルトカレープロジェクトを始めました。  
何度も試作を繰り返し、僕たちの理想のトリさんのカレーが完成しました!  
「トリあえず食べてみ?」

学生が  
「さあ、みんなで  
つくりました!」  
「トリさんの  
カレーは、  
おいしい!」

千原園産物の使用  
保存料なし

Curry  
is my life

企画: 千葉商科大学 THE UD PROJECT 2019  
ネーミング&デザイン: 野崎 晋太

栄養成分表(1人分/110g) 推定値	食物アレルギー特定原材料27品目
エネルギー 172kcal / たんぱく質 9.9g / 脂質 10.4g 炭水化物 9.9g / 食塩相当量 1.3g	小麦 大豆 卵 鶏卵 豚肉

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です

CUC 千葉商科大学  
Chiba University of Commerce

〒260-8501 千葉県千葉市中央区千原1-1-1  
TEL:043-260-2211 FAX:043-260-1711



# サバイバルキャンプ in いちかわ

## 第4回サバイバルキャンプinいちかわ（2021年6月）参加学生の声

- ◆火の性質、火の危険性、生態系への影響など知らないことばかりで楽しく学べた。
- ◆火やマッチに対する恐怖心が薄まった。
- ◆薪が燃えて灰になるのを見ていると心が落ち着く感じがした。
- ◆自分一人で薪を集め、火を起こし、ご飯とカレーを温めることができ、普段の何倍もおいしく感じた。達成感と感動が同時に生まれた。
- ◆普段の電化生活では、新聞紙を燃やすこと自体できない体験なのですべてが新鮮で楽しかった。
- ◆知っているつもりの事が認識違いだったりして学ぶことが多く、やってみて学ぶことの大切さがわかった。
- ◆自力で成し遂げる実感があり、上手くいかないことも含めて充実していた。
- ◆体験しているかいないかで、いざという時の安心感が違うと思った。
- ◆自分だけでなく他者も助けようと思う。



# サバイバルキャンプ in いちかわ

## 所感及び今後の展望

コロナ禍において、私たちは今までの生活スタイルを見直さざるを得ない状況となっている。最終的には自分の事は自分で出来ないとダメなのだな、政治も会社も当てにとしてはダメなのだな、と言った思いを持つ人は多いだろう。キャンパスにおける各種イベントが中止される中、第3回・第4回サバイバルキャンプin いちかわを開催した理由には、有事を生き延びるスキルを身に付けることもさることながら、参加者一人一人が自然との共生をベースにした、これからの生き方を考える機会にして欲しいとの思いがある。

マッチで火を起こす経験は、ほとんどの学生にとっては小学生以来のことで、皆一様に苦戦していた。それでも火が燃える上での3要素を理解するにつれて、マッチから新聞紙へ、更に木端へ薪へと火を大きく育てることが出来るようになっていく。これが出来るようになるまでに、午前中の3時間を使った。私たちの年代からするといかにも簡単な行為と思えるが、これが今の大学生の現状である。

多くの大学生は有事を乗り越えるための自助力が不十分である。本学が地域防災に機能するためには、まず彼ら自身の防災スキルをアップさせる必要があるだろう。「楽しい防災教育」をカリキュラム化してより多くの学生が体験できるようにすることも考える必要があるのではないか。その中から意識を高く持つ学生が現れることを期待する。自助力を身に付けた上で、その力を地域の子供たちを指導する側として活かせる人材を、どれだけつくっていけるかが重要と考える。大学のサポートにより、72時間サバイバル教育協会の指導者育成プログラムを履修し合格へ導くことも考えたい。



# 「サバイバルキャンプinいちかわ」プロジェクトビジョン

① サバイバル教育プログラムを導入し大学生のスキルを高める



② 大学生・教職員からサバイバル教育の指導者人材を作る



③ 大学生・教職員・OB OG が中心となり地域の小学生を指導する



④ 大学の指導体制が固まり活動が活発になる



⑤ 行政・産業界も加わり一気に市川市から全国に広がる



# 車バイバル

- ◆第1回「車バイバル」実施 2021年6月13日(日)9:30～16:30
- ◆国府台コンソーシアムで知識と体験を共有 → チーム化促進
- ◆大規模水害でのクルマ避難民の受け入れ態勢構築
- ◆「車バイバル」を「楽しい防災教育」として地域住民へも展開

